

平和・人権  
社会・宗教  
政治と暮らし  
分かれ合い

No.72

# 共に生きる

発行／〒806-0049 北九州市八幡西区穴生1-8-10／瀬下幸弘 FAX093-622-1290

日本漫画家協会  
日本漫画家会議にし やま すすむ  
西山 遼高島市長、戦争展の  
後援とりけい

地方自治も右よりの風潮が流れて  
来ました。よほどしっかりしないと、  
また戦争にもついかれそうです。

(福岡市で開かれていた「戦争展」を後援して  
いた福岡市は8月28日、突如「後援取り  
消し」。原発No1 TPP批准阻止! これは  
政治問題でなく命と生活の問題なのです)

## 眞実と感動の映画上映 『太陽がほしい』

「慰安婦」とよばれた中国女性たちの人生の記録  
はんちゅうぎ

班忠義監督の力作です!

10月15日(土) PM 1:30~

カトリック細江教会

下関市細江町1-9-15

参加費:一般1,000円・学生500円

(チケット有ります。瀬下まで)

## 10月の講演・集会案内

- ◆10月1日(土)北九州閑門宗教者平和懇談会11回…12時20分  
(市民活動センター)その後、下関アムネスティ…14時
- ◆10月8日(土)強制連行の足跡をたどるフィールドワーク  
日本とコリアを結ぶ会下関…14時～赤間神宮前広場
- ◆10月15日(土)映画「太陽がほしい」(カトリック細江教会)  
上映後、班監督のトーク 下関アムネスティ主催…13時30分
- ◆10月22日(土)キリスト者9条守りたい(西南KCC)…14時
- ◆10月28日(金)黒崎駅前街頭宣伝(八幡西区革新懇)  
戦争法廃止の呼びかけ…18時～19時

かんなづき  
神無月  
**10**  
2016

福岡高裁那覇支部 9月16日判決

## 翁長雄志沖縄県知事は即時最高裁へ上告

辞アバダ  
ガタマサ

この判決はまさに司法の敗北と言えるのではないか。辺野古の海埋め立て承認を取り消したことから、国が沖縄県を訴えた裁判に偏った判断、沖縄タイムスは「司法の独立が本当に維持されているのかといふ根源的な疑いさえ抱かせる判決」、琉球新報は「普天間飛行場の被害を除去するには、本件埋め立てを行うしかないと断定し、国が主張した『沖縄の地理的優位性』を認定するなど司法として異例の踏み込んだ内容…判決は国側の主張をことごとく採用」と述べるほどゆるすことのできないものでした。私たちも判決文を少しずつ読み解きながら、これが高等裁判官の出す判決なのかと驚きました。本来、争うべき埋め立てによる自然環境面については一切触れず、軍事面についてなりふりかまわぬ安倍政治にすり寄ったものです。裁判所が憲法判断に基づかず、政治権力と一体となれば三権分立が崩壊します。しかし沖縄県民は不屈の精神で闘い続けることでしょう。しかもさらに結束を強くして。いま、東村高江でも大きな闘いが行われています。暴力を一切使わず、座り込みと抗議の声で闘っていますが、そこにも国家権力、機動隊が住民に牙をむき暴力を使い、国民には関心を向けさせないよう情報操作をしています。自民党安倍政治の怖さが見えますが、沖縄県民と心を一つにすれば、安倍政権のもろさも見えてくるはずです。希望をもつて闘い続けましょう。

## 司法の良心までも安倍政権に売り渡し 不当判決で押さえ込むのか

世界人権宣言(谷川俊太郎訳)

### 第21条 選ぶのはわたし

わたしたちはみな、代表を選んで自分の国の政治に参加できます。また、だれでもその国の公務員になる権利があります。みんなの考えがはっきり反映されるように、選挙は定期的に、ただし平等に行なわれなければなりません。その投票の秘密は守られます。

### 10月9日(日):イチイチ祈りの会

カトリック  
場所は黒崎教会小聖堂、ミサ後～  
どなたでもお出でください。



# 西山進さん平和パネル展で講演

第13回平和パネル展が八幡西区の健和会上津役診療所で行われました。その中で西山進さんが長崎での被爆体験やその後の生き方、そして現代がどのような方向を向いているかなどについて語りました。「私の被爆体験～伝えたい 平和への思い～」がテーマ。講演から編集部でまとめたものを読者の皆様にご紹介していきます。(文責/編集部)

【1】

僕は被団協新聞、民医連新聞、月刊民商、全労連などで漫画を描いています。年金者組合にも入りこの前、生前葬を盛大に行い、墓地も買いました。あとは「チーン」するだけ。(爆笑)こんな楽なことはありません。88歳になりました。私の体験をお話します。

ひどい世の中でした。小学校になり教科書が「サイタサイタサクラガサイタ」から「ススメススメハイタイススメ」と。子守唄でさえ変わっていき戦争で死んでゆく人たちをいっぱいいくつくる教育を徹底的に受けました。「私はこう思う」というのが言えず、先生や親の言うことが絶対の中で育ちました。

大分県生まれで家の前には宇佐海軍航空隊がありました。沖縄戦が始まる頃、そこから特攻機がそのまま飛び立ち帰らぬままとなったりしました。ほとんど20代の青年がいとも簡単に殺されるような時代です。1931年(昭6)満州事変があり、1937年(昭12)7月7日に日中戦争が開始、これが大きな泥沼に足を突っ込んだきっかけとなりました。

親戚が三菱重工長崎造船所にいましたので小学校卒業後、その会社に入り寮生活。夢が無かったです。物資も食べ物もだんだんなくなっていくわけですから。何よりも階級社会、上の者には反抗してはならないのですから。僕が一番いやだったのは、寮での食事時でした。上級生にはてんこ盛りなのに下級生には少しさず。『こんちくしょう』と睨みつけると後で上級生から『ガツン』とやられる。一週間に何度もやられる。「ああこんな戦争早く終わらないかな」と。一方、造船所では生産

が増えていきます。戦艦武藏もありました。戦争の初めの頃は鉄も八幡製鉄所から送り出されていましたが、だんだんとなっていました。アメリカも初めは軍事施設を爆撃していましたが、次第に大都市を焼き払うようになりました。1945年3月10日、東京大空襲で10万人近くが死にましたね。本当にいやでした。早く戦争が終わらないかな。上級生にはいじめられるし…。

ある日私は替え歌を、たわいもない替え歌でモヤモヤを発散させていたんですね。ノートに書き込み、寮の本棚につっこんで工場にいきました。翌日、工長が飛んできて「西山! 稲佐警察署から出頭命令がきてるぞ」。わけのわからないまま出頭し、恐る恐る取調室に入るとそこに私の作った替え歌のノートがあり、付箋が付けられていました。驚きましたね。後でわかったのですが、少年達がどんな話をしているかなど特高係、造船所警務課、寮父が組んで私物検査をしていたんです。無断で。その時その替え歌が見つかってね、もう絞られましたよ。親は何をしているか、この戦争についてどう思うかなど。戦争についての質問には100点満点「天皇陛下の為に命を捧げ…」嘘八百を並べて「よし帰れ」と。隣室の取り調べ室から「アイゴーアイゴー」の声が、もしかすると朝鮮の人かもしれません。投げ飛ばされていたと思います。

さて、それからというもの何にも悪いことをしていないのに警察に呼ばれたということだけで、マークされるわけです。盗難事件があると警務課から (次号)

## 分かち合いのひととき

9月25日 19名参加

## 虹の会

次回2016年10月23日ミサ後。  
どなたでもご参加ください。

…… ご覧ください。これが私たちの教会です。……

世界宗教史上奇跡といわれるキリストンの歴史を長崎教区古巣馨神父様の講演CD「この道」の抜粋箇所を通して、信仰における私たちの祖先の

生き様に触れ、改めて私たち自身の信仰や教会共同体のあり方などについて分かち合う貴重な時間を共有することができました。

# 言葉は真理・言葉は正義 言葉は平和・言葉は愛



## 林神父平和講演で 自民憲法草案の 空疎さを語る

9月24日(土)、「キリスト者・九条の会」北九州の平和講演が、在日大韓教会小倉教会の西南KCCで開催されました。講演に先立ち、2年に1度の総会で、今後の活動方針などが確認され、その後、9条守りたいメンバーによる平和コントで会場は盛り上りました。

### 【林尚志神父の講演】

テーマ「個人の尊厳と理想。国家権力と憲法」。2012年の自民党の日本国憲法草案を読み、最初に気づいたことは、現憲法99条(天皇、摂政、國務大臣、国会議員、裁判官、その他の公務員はこの憲法を尊重し、擁護する義務を負う)を自民党案では、天皇と摂政が無くなっていることだと切り出しました。神父は、小学校1年から小学校6年までの「国民学校のフルコースを食べさせられた」経験から、今の天皇が象徴であって平和憲法のもとにあることが自身にとって大切だったと言います。そして今の日本の現状を「不敬罪、いろんな危機がすぐそこまで差し迫っている」と分析。子どもの頃、キリスト者の家庭だったため、敵性国家の宗教信者だからスパイかもしれないという隣組の目。「神棚は有りますか?」との問い合わせに心ならずも神棚を購入した母の踏み絵。これらの体験から

「権力者」の定義は①経済力②軍事力③政治力④教育⑤精神性・宗教 この5つを支配することではないかと問いかけました。情報操作によって真実が隠される今、私たちにできるのは正しい情報を共有し拡散すること。そして「若者の反乱のないところには死臭がし、年寄りの反乱のないところにはあきらめの砂漠が広がり、女性の反乱のないところには命が枯れる。反乱とは発言です。」と強調しました。最後に日本語で「権利」と書くがドイツ語、フランス語では「権理」と書く。個人の利益ではなく「権理」は「当然の真理」だから自民党草案に見え隠れする「個人の権利は個人主義、利己主義だから権利を主張させない」という言葉に、押し返していくこうと結び、言葉は、真理であり、正義であり、平和であり、愛だ、と強く結びました。  
(編集部)



自民党憲法草案と現憲法を平和コントで紹介。大好評でした。

## 《アムネスティ》下関通信 (2016/10)



もうすぐ、18年間400時間の取材フィルムが2時間に集大成された、班忠義監督の中国人「慰安婦」映画「太陽がほしい」の上映日です(主催・アムネ下関10/15・土、PM1:30~カトリック細江教会)。同監督のメッセージの一部です。「20年前、真理を知りたくて山西省の山奥でカメラを廻し始めたが、暗闇を生き続ける女性たちの半生と最期の看取りの記録を、反論も多い日本社会に生きた証言として残すことは、私に託された使命だと感ずるようになりました。おばあさんたちはいつも太陽を浴びたいと切望していました。この映画は完成して終りではありません。これから社会の中で私たちはさらに太陽を求めて歩き続けたいと願います」。



監督は昨年の下関講演の中で、「戦前の日本は中国人をチャンコロ(蔑称)と呼び、下関から中国へ渡った軍人た

ちの訓練に小学生の前で42人の中国人の首を切り落させた証言もある」と、戦前教育の間違いをアムネスティ精神と比して指摘しておられます。私は最近そのことを裏付ける古い資料に出合い息をのみました。

「三つ子の魂百まで」というタイトルの原稿の中で強力な軍国主義教育の成果を検証する例として紹介されている、1938年9月10日付鹿児島県地方新聞掲載、尋常小学1年生の「学童慰問文」です。「ヘイタイサンハゲンキデアルカ、ワタクシハ、ガッコウニイッテилас。ヒコーキニノッテヰマスカ シナノヘイタイヲウッコロセ、カンナデキリタクリナサイ。イノリマス。」注(カンナーナ)(下関の市民人権紙「海」2003/4号より)。1938年は上海に日本軍慰安所の初看板が掲げられた年です。

美しい秋陽を受けて真実の証言を伝えてゆく力が私たちにも与えられますように。

(2016.9.25 アムネ下関、山県)



## 放射性物質の特質

原発事故が起きたときに一番恐ろしいことは、私たち人間が放射線を浴びること、被曝するということです。

被曝すると、私たちの身体の細胞が傷ついて変質してしまいます。しかも、被曝と一般的な怪我との違いは、怪我の場合には痛い・苦しい・動けないという自覚症状がすぐに現れるので、直ちに病院等で対応して貰い、治療を受けることができます。しかし、被曝した場合には、被曝の瞬間にはすぐに自覚症状が現れないし、被曝の直後だけでなく、数十年後になってから障害が出ることもあり、しかも、本人だけでなく、子供や孫、その後の子孫にも影響が及ぶのです。従って私たちは放射線被曝ということを検討し、それを免れるためには、放射線のことをできるだけ多く知る必要があるのです。

「放射性物質」というのは、放射性元素を含む物質の総称であり、「放射性元素」というのは放射能を持つ元素で、天然に存在するものはウラン系列・アクチニウム系列・トリウム系列の諸元素などで、人工的につくられるネプツニウム系元素もこれに属するもので、超ウラン元素はすべて人工放射性元素です。なお、通常、「放射性核種」という言葉を聞きますが、これは放射能を出し、放射能をもつ原子核の種類のことです、自然界に存在する「天然放射性核種」と加速器や原子炉でつくられる「人工放射性核種」とあります。

「放射性 (radioactive)」というのは、放射能をもつ性質のことをいいます。「放射能 (radioactivity)」は、放射性物質が放射線を出す現象またはその性質です。

「放射線 (radiation)」というのは、広義に種々の粒子線及び電磁波の総称で、輻射線あるいは単に放射・輻射ともいわれているもので、通常、「放射線」というときには放射性元素の崩壊に伴って放出される粒子線または電磁波のこと、アルファ線・ベータ線・ガンマ線の三種をいいますが、それらと同じ程度のエネルギーをもつ粒子線・宇宙線も含めています。アルファ線はヘリウムの原子核、ベータ線は電子または陽電子からなる粒子線、ガンマ線は非常に波長が短い電磁波で、いずれも気体を電離し、写真作用・蛍光作用を示します。1896年にベクレルにより、ウラン化合物から発見されたのです。

原発との関係で新聞等で目にすることの多い言葉として、「放射線量」という言葉があります。これは、物質に照射された放射線の生物学的または科学的效果を定量的に表すための放

射線の量のことで、単に「線量」ともいわれているもので、これには「照射線量」と「吸收線量」とあります。

なお、原発との関係で問題にされるのに、「放射線障害」という問題があります。これは、放射線の照射に生じる有害な影響を指して述べている言葉で、身体的な影響と遺伝的な影響があり、照射線量・部位・核種によって障害に差異があるといわれております。一般的には分裂の盛んな細胞ほど感受性が強く、貧血・白血球の減少・出血傾向・免疫不全・脱毛・不妊等を発生させ、後遺症として白血病・癌・臓器線維症等を発症するとされております。放射線障害というのは、放射能の強さに影響を受けるところがあります。この放射能の強さは、単位時間当たりに変化する原子核の数で表され、毎秒1壊変するときを1ベクレルといいます。以前は、ラジウム1グラムの放射能と等しいキュリーが使われた(370億ベクレルキュリー)ことがありました。放射線の人体への影響には、ある限界量以上でないと起こらない障害=非確率的影響と、低線領域でもそれなりの割合で起こる障害=確率的影響があるといわれております。

さらに、原発に関する文献などで見られる言葉として、放射性核種には固有の寿命があるという問題があります。通常、「放射性核種の寿命」については、従来からの研究を基にして、放射性物質が放射線を出し続ける期間としてその量について、「半減期」という言葉を使って説明されてきました。放射線の量が半分になるまでの期間のことであり、放射能の強さがはじめの半分になるのに要する時間=半減期という表現をもって説明されていることがあります。この

「半減期」は湿度・圧力・その他の外部条件によって変化することはないとされており、この性質が考古学や地質学などで最も信頼できる測定法として利用されているのです。私たちも放射線障害について考えるときに、その前提として、放射性物質の「寿命」について知っておく必要があります。なぜならば、放射性物質は長期にわたって放射線を出し続けるものであるという特質をもっているものだからであります。

この「半減期」ということについては、従来2つの意味に理解されてきました。その1つは「物理的半減期」であります。物理的半減期というのは、放射性核種自身にも放射能を放出しているために時間の経過とともに減る性質があり、これを指して述べている言葉であります。他の1つは「生物学的半減期」というものであります。生体の組織は、早いか遅いかの別はありますが、常に時間とともに新しい細胞へと入れかわりを続け、新陳代謝を繰り返しております。従って、私たちの体内に取り込まれたおおかたの放射性核種は諸々の臓器をめぐり、特定の臓器や組織の細胞内に侵入し、よどんでも、時間がたつにつれて便・尿・汗や呼気な

とともに排泄されていくのであります。従って、続いて摂取されなければ、徐々に体内の放射線の濃度は低くなっていくのです。もちろん体から出て行くまでの平均的な時間は核種によっても異なりますが、この排泄によって当初の量の半分の量まで減る時間と、さらにその半分(当初より4分の1)になる時間は同じであると見みられております。この時間のことを「生物学的半減期」といっているのであります。

私たちが内部被曝について考える場合には、この2つの半減期を考慮しなければならないのであります。このことを専門家のたちは「実効半減期」といっているのです。「物理的半減期」については、例えば、ストロンチウム90(記号<sup>90</sup>Sr)の場合には29年、プルトニウム239(記号<sup>239</sup>Pu)の場合には2万4000年であるといわれております。この外に、主な放射性物質の物理的半減期をみると、ウラン235(記号<sup>235</sup>U)は7億年、ウラン238(記号<sup>238</sup>U)は45億年、ヨウ素131(記号<sup>131</sup>I)は8日、セシウム137(記号<sup>137</sup>Sr)は30年、ラジウム226(記号<sup>226</sup>Ra)は1600年、リン32(記号<sup>32</sup>P)は14日間、カリウム40(記号<sup>40</sup>K)は13億年、コバルト60(記号<sup>60</sup>Co)は5.3年、鉄59(記号<sup>59</sup>Fe)は45日間とされております。これは、私たちの体内に入った放射性物質が放射能を出し続けて当初の半分の量になるまでにこれだけの年月がかかるということです。

「生物学的半減期」の方を見ますと、例えばストロンチウム90の場合で18年、プルトニウム239の場合には100年とされております。つまり、私たちの体内に入った放射性物質が「代謝」や「排泄」によって量が半分になるまでの期間がこれだけ必要であるということです。私たちの体内に入った放射性物質は、この「物理的半減期」と「生物学的半減期」の両方の作用によってその量を減らしていくのであります。なお、このことによって半分になる期間のことを「実効半減期」といわれています。この「実効半減期」については、以下の式によって求めることになっております。

$$\frac{1}{\text{実効半減期}} = \frac{1}{\text{物理学的半減期}} + \frac{1}{\text{生物学的半減期}}$$

この「実効半減期」は、摂取した放射性核種が体内で半分になる時間を示しており、私たちが生涯にわたってどれだけ被曝するかを求めるときに重要なものです。例えば、セシウム137を例にしますと、

$$[1/69.6\text{日} = 1/(365\text{日} \times 30\text{年}) + (1/70\text{日})]$$

という式になるといわれております。しかし、摂取した放射性核種による内部被曝の線量を算出するためには、摂取された核種を一人ひとり直接的に測定することは不可能であります。さらに個別の核種の体内分布や臓器蓄積量・排泄までの時間の計算も不可能であり、被曝量に対する生物的影響(感受性)も個人差があるために、個別の内部被曝線量係

数を決定することは不可能なのです。そのため、人体モデル(コンピューターファントム)を用いて、それぞれの核種を摂取したBq(ベクレル)数により、受けた被曝量を換算するための「実効線量係数」を算出して、それを用いて生涯内部被曝線量の「預託実効線量」というものを計算しているのであります。

「預託実効線量」とは、ホールボディカウンターなどの体外計測法もしくは尿や便などの排泄物から計算するパイオニアツセイ法によって推算された摂取Bq数に換算すると、生涯にどれだけの内部被曝をするかがわかるのであり、この計算で求められた内部被曝線量のことを預託実効線量といいます。この実効線量の係数によりますと、例えば、成人に対するセシウム137の経口摂取では $1.3 \times 10^8 \text{ Sv/Bq}$ 、ストロンチウム90は $2.8 \times 10^8$ 、ヨウ素131は $2.2 \times 10^8$ であるとされています。この核種の「実効線量係数」についての詳細は、国際放射線防護委員会(ICRP)の刊行物(ICRP publ.72;1996)に示されております。しかし、この「実効線量」については、自覚・他覚障害が発生しないレベルの線量における範囲での放射線防護を目的としたものでありますので、ICRP勧告では、個人の被曝影響(発癌や死亡確率)や被曝リスクの評価に使用してはならないとされております。

以上、申し上げてまいりましたことは「半減期」のことです。従って、放射能の力が無視できるほどに弱くなるまでには、この半減期の『10倍』の時間がかかるとされているのであります。つまり、私たちの身体の中に一度放射性物質が入ってしまうと、私たちは長い時間にわたって放射線を受け続けることになるのです。そして、これが身体内の細胞を徐々に傷つけ、発病をもたらすことにもなるのです。私たちが放射性物質を身体に取り込んでしまったら、自分だけでなく、子供も、孫代々までも根気の要る闘いが求められ、長期にわたって不安の毎日にさらされ続けることになるということです。しかし、原子力発電所の設置については、このことについての考慮はされてなく、放射性物質の寿命と対応した原子力発電所と核燃料などの安全性の対策も、政策も、そのための費用の負担についてもほとんど明らかにされてはいないのであります。(続く)

### 読者レポート

#### 「日本語を大切に」(山口県 横)

世界の情勢が英語重視となった昨今、私は日本語が軽視されつつあると感じている。3年前、文部科学相が「有力大学は2023年までに授業の半分以上を英語にするよう」求めた。それについてある政治学者が「日本語が学問やビジネスの第一線の言葉でなくなってしまい、日本の国力が高まるか疑問」と案じています。私も同感です。今の若い人は、短的な言葉遣いの人が多く、意思の疎通に欠けるきらいがあると感じているのは私一人でしょうか?

## リレー『平和への手記』

「キリスト者・9条の会」の「9条守りたい」定例会(2016年5月28日)  
差別をなくし戦争のない社会を

③



在日コリアン歴史・文化と平和の語り部

裴 東録さん  
トングノク

※文責／編集部

【活動の原点】  
その原点は「朝鮮人として差別を受け続けてきたこと」です。そこから話をしています。

植民地時代

1940年代、日本の植民地時代に父が日本へ連れて行かれ、八幡製鉄所で鉄鉱石運搬、鉱石を手で運んだりして働かされました。その2年後オモニも日本にきて製鉄構内に入り運搬作業に従事しました。朝鮮人6千人が働いていたということです。決して少ない数字ではありません。また(筑豊などの)炭鉱においては坑内石炭労働に従事させられました。日本は満州事変から15年間戦争をしましたから戦争に勝つには鉄を作らねばなりません。その鉄を作るためのエネルギーとして石炭が必要でした。その石炭を掘る仕事に朝鮮人が従事させられたのです。石炭・鉄・朝鮮人、その3つの関係ができました。日本人は戦地にいくので労働力が不足する。その労働力不足を補うように、朝鮮半島からたくさんの人を連れていました。これがいわゆる強制連行、強制労働と呼ばれるものであります。もちろん全員がそうではありませんが。日本の植民地支配によって朝鮮半島は奪われました。根こそぎ奪っていくことが植民地支配です。軍事力で押さえ込み、その土地の米も含め全ての資源を

奪い取ることです。1910年「韓国併合」＝日本の朝鮮半島植民地支配で收奪されていきました。私は幼い時から母親の話を聞いてきました。私の親は泣いていました。穂れたお米を農協に納めるようなのを悔しくてたまらなかつたと。そのときオモニは朝鮮語で「このやろう、私の米を返せ！」と叫んだそうです。オモニの思いはどんなだったでしよう。本当に悔しかつたと思いますよ。日本の警察と官憲が来て奪っていくんですから。こういう時代を母は生きてきたんです。この時代は「米」が「一年間の命の糧」なんです。だから飢え死にする人がいっぱいいたんです。4人の子ども、幼子もいましたから、農業もできない。当時、機織りは手仕事でしたので、夜に仕事をするのですが、空腹で意識が朦朧としたそうです。空腹でまいがしたら、どうしたと思います？乾燥した唐辛子を噛んで水を飲んだそうです。どんなに空腹でもこの辛い唐辛子は食べられませんよ。みなさん、想像してみてください。私はその話を聞いて涙が止まりませんでした。何度も死のうかと思つたそうですが、四人の幼子を見て死ねなかつた。だから日本に連れて行かれたお父さんを返して下さいと頼んだら、「戦争をしているからだめだ」と言われ、それなら日本に行かせて下さいと。そして許可を得て2年後、関釜連絡船で日本へ渡りました。12月の寒い時でした。在日一世の人たちはそういう思いをしてきたんです。(次号)

編 集 後 記

並びの事務所のテナント9件中2件が閉店。今年になつての状況。1件は24年間続いた真向かいの酒屋。母子で懸命に商売していたようですが、ダメでした。酒類を安売りするスーパー等の影響で注文が激減。それでも大型冷蔵庫等設備しないと商売は無理。大学出の38歳位の息子さん、就職は大丈夫か?などと勝手に心配しています。また窓から見える他の貸事務所もその半分が「テナント募集」。以前は空店舗がすぐ埋まる状況でしたがその気配はありません。用紙業の方が「アベノミクスなんて嘘だ」。同感ですよ。(瀬下)